

花火ダイアリー 2



ぎふ長良川花火大会実行委員会事務局

森島 悠

花火満開まで92日

3月7日～8日の2日間、長野県諏訪市「諏訪湖上祭花火大会」と、長野市の「長野えびす講煙火大会」事務局を訪問してきました。どちらの花火大会も私たちと共通する点、同様の課題もあれば、違いも多々ありました。そのなかで、今回は「諏訪湖上祭花火大会」について取り上げます。

「諏訪湖上祭花火大会」は毎年8月15日に開催されており、昨年で75回目という歴史を誇る長野県内で最大規模の花火大会です。打上会場は上諏訪駅から徒歩5分、諏訪湖畔公園約1kmにわたって観覧席が設けられ、湖上に浮かぶ初島神社とその周辺から花火が打ち上げられます。湖畔公園には散歩コースが整備されており、近隣には温泉街が広がるなど、「ぎふ長良川花火大会」との立地的な共通点が幾つもありました。大きな違いは何といっても打ち上げ場所の広さです。諏訪湖が岡谷市、下諏訪町、諏訪市の2市1町にまたがる大きな湖であるという立地を生かし、湖上にはスターメイン発射台、ナイアガラ、水上花火の仕掛けが設置され、さらに湖には10号玉という大きな花火を打ち上げるために人工島までもが作られています。湖上ならではの特徴が生かされた花火大会には、毎年全国から大勢の観光客が訪れています。

一方で「ぎふ長良川花火大会」では、諏訪湖のように10号玉など大きな花火を上げることはできませんが、その分長い河川敷を利用した広範囲に展開するスターメインが特徴です。諏訪湖では打上現場が湖上にあることから打ち上げ筒を置く場所が限定されていますが、長良川では川の特徴を生かして、去年は約600メートルの「超ウルトラワイドスターメイン」が打ち上げられました。さあ、今年はどうな演出になりますでしょうか。華やかで、大迫力の花火大会を、どうぞご期待ください！

今年も全国各地の花火大会が日本中の夏の夜空を彩ります。今回、諏訪湖と岐阜の比較をしてみました。どこの花火大会もその地域の特徴を生かした演出になっています。今年はそんな観点で花火大会を楽しむのも面白いかもしれませんよ！



かつて打ち上げていた30号玉の模型が飾られていました。
諏訪湖間欠泉センター3階「花火館」